

来週の「売り物」記事はこれ



2012年5月18日号 毎日新聞東京本社 編集局・販促宣伝部

ワイドショーでも取り上げられ話題沸騰！

超大型読み物「S（ストーリー）」！

「孤立死」という日常 朝刊 20日（日）



いま、「死の風景」が大きく変わろうとしています。これまで家族に見守られて——というのが、ごく普通の「死」の迎え方として語られてきましたが、核家族化の進展と、伝統的家族制度の解体に伴い、独りで「死」を迎えることが当たり前の時代になりつつあるようです。実は、自宅で亡くなる独居高齢者は全国で推計3万人ともいわれます。いわゆる「孤立死」「孤独死」と呼ばれる死は、何も特別なものではなく、日常の光景になろうとしています。

東京・立川の都営アパートで死後1カ月後に見つかった母娘、茨城県つくば市の老人ホームで見取られることを拒否しながら、独り亡くなった元女性教師——。2つの死のありようを記者が追い、「孤立死の時代」を加速させている、社会、そして家族観の変化に迫りました。

日曜朝は『S』で始まる——。ご期待ください。

シリーズインタビュー「時代を駆ける」

中国ハルビン市出身の作家、楊逸さん 22日から

母語が日本語ではない書き手として史上初めて芥川賞を受賞した中国ハルビン市出身の作家、楊逸さん=写真。2007年に文壇の登竜門である文学界新人賞を受賞してデビュー。08年には天安門事件など社会の激動に揺れ動く中国人青年たちの夢と挫折を描いた「時が滲む朝」で芥川賞を受賞しました。その後は、多視点を持つユニークな小説家として着実に作品を発表し、日本文学に新風を吹き込んでいます。



22歳で来日するまでまったく日本語を知らなかったという楊さん。これまでの波乱に満ちた軌跡を振り返り、たくましくユーモアを忘れない人生への思いを語っていただきます。

第70期名人戦七番勝負 第4局 22、23日



第70期名人戦七番勝負第4局が22、23日、静岡市の「浮月楼」で行われます。

森内俊之名人=写真右=が2勝し、挑戦者の羽生善治王位=同左=をリードしています。しかし両者とも勝ったのは先手番で、第4局は羽生の先手です。

小学生時代からのライバルで、名人のタイトルをかけた対局も7回目。互いの手の内を知り尽くした2人です。今期の対局はいずれも、深く研究して手を用意していることが分かる熱戦となっています。

子どもの「委託一時保護」 くらしナビA面 22日(火)

親が急病になったり、虐待があった場合に、子どもを緊急的に一般家庭に預ける「委託一時保護」の制度があります。里親の経験がある川崎市の夫妻は昨年、2歳から小3まで子ども4人を2週間預かりました。子どもたちは保護施設で暮らすよりも伸び伸びと生活できますが、委託先の家庭の負担が大きいなど課題もあります。



梅雨どきの常備菜 くらしナビB面 22日(火)



梅雨に入ると食品が傷みやすく、食中毒を招きかねません。保存が利く常備菜の作り方を、料理教室講師の越川藤乃さんに聞きました。肉に塩をもみ込んでゆでる「塩豚」や、酢やオリーブ油を使った「ミニトマトのバジルマリネ」などのレシピを紹介。ニンジン、ブロッコリーなど何でもマリネ液に漬けておけば、付け合わせや食材に活用できます。

月刊だまされない～詐欺の2次被害

くらしナビA面 25日(金)

投資や資産運用を持ちかけられてお金をだまし取られた人に、「業者の隠し資産が見つかった。〇%の手数料を払えば返金できる」と勧誘する新たな詐欺が続発しています。損を取り戻したいという人間心理を突く詐欺の実態を、弁護士の村千鶴子さん＝写真＝が解説します。



「バカ新潮」「紫頭おぼはん」…

ツイッターに見る橋下徹大阪市長

夕刊特集ワイド面 22日(火)

激しい個人攻撃が見受けられる橋下大阪市長＝写真＝の140文字のつぶやきの連発を言語学者や心理学者が分析する。「庶民の目線で権威を攻撃するので、聞き手の閉塞感を解放する」という側面がある一方、「かんしゃくを起こした子供に似ている」との評も。

— 写真特集 —



今週は21日の金環日食と22日のスカイツリーオープンを本紙とそれぞれ朝刊写真特集でお届けします。金環日食は、各地で行われる観測イベントや街中で観察する人々の様子など様々な視点で捉えます。天気が悪い時でも航空機で雲上からの撮影した写真を確実にお届けします。

東京スカイツリーは、22日午前の開幕セレモニーを始め、付属の商業施設や水族館だけでなく、周辺の下町の表情も。本社ヘリによる空撮でも賑わう天望回廊や天望デッキを紹介。ツリーからの絶景も見所です。

